

第3回 ツール・ド・北海道 安全対策検討会

議事次第

2024年1月30日(火)

10:00~12:00

リモート開催

1 座長挨拶

2 議事

警備体制

3 その他

(配付資料)

第3回説明資料

第2回ツール・ド・北海道 安全対策検討会議事要旨

第3回検討会説明資料

ツール・ド・北海道協会

目次

- 1 警備体制
- 2 警備会社アンケート
- 3 警備員アンケート

警備体制

コースと交通規制

前回(第2回検討会)資料を修正(誤謬訂正)

	コース	交通規制	コース延長
A	片側1車線		91.3km(52.5%)
B		対向車線止め	59.0km(33.9%)
C	2車線全幅使用	対向車線止め	23.7km(13.3%)
	合計		174km



警備員
交通整理員

112人
221人

} Stationary Marshals 333人

警備体制概要

2023大会 警備JV代表会社以下24社 378名（全ステージ）

【第1ステージ】

2023大会

旭川市総合防災センター → 新得町サホロリゾート(174km) 14社 112名

2019大会

旭川市総合防災センター → 新得町保健福祉センター(185km) 11社 111名

【第2ステージ】

2023大会

帯広競馬場 → 置戸町イベント広場(183km) 121名

2019大会

帯広競馬場 → 北見市留辺薬町旭運動公園(174km) 127名

【第3ステージ】

2023大会

北見市民スケートリンク → 当麻町スポーツセンター(175km) 145名

2019大会

北見市民温水プール → 当麻町スポーツランド(182km) 172名

2023大会 警備会社数と警備員数

	第1ステージ			第2ステージ			第3ステージ		
	交通整理業者名	所在地	人員	交通整理業者名	所在地	人員	交通整理業者名	所在地	人員
1	A	札幌市	3						
2	B	札幌市	59	B		46	B		30
3	C	旭川市	3						
4	D	札幌市	8						
5	E	旭川市	5				E		5
6	F	札幌市	3	F		3	F		3
7	G	札幌市	4				G		6
8	H	札幌市	3	H		3	H		3
9	I	札幌市	4						
10	J	小樽市	4	J		4	J		4
11	K	札幌市	6	K		7	K		6
12	L	札幌市	3	L		4			
13	M	札幌市	3	M		3	M		3
14	N	札幌市	4	N		4	N		6
15	14社		112	O	帯広市	8			
16				P	帯広市	4			
17				Q	帯広市	10			
18				R	札幌市	8			
19				S	帯広市	2			
20				T	札幌市	3			
21				U	北見市	12			
22				15社		121	V	釧路	14
23							W	北見	35
24							X	北見	30
							12社		145

24社 378名

警備員等の役割

競技は一般道路を使用することから、一般車両や歩行者の通行を整理・指示して、選手、競技関係車両、観客、通行車両の安全を確保。

警備員配置箇所

- 定周期・感応式・押しボタン信号機設置箇所
- 交通規制箇所(全幅使用・対向止)
- 交通量の多い交差点(一時停止交差点など)
- HS・KOM及び補給ポイント
- 駐車場 など

交通整理員配置箇所

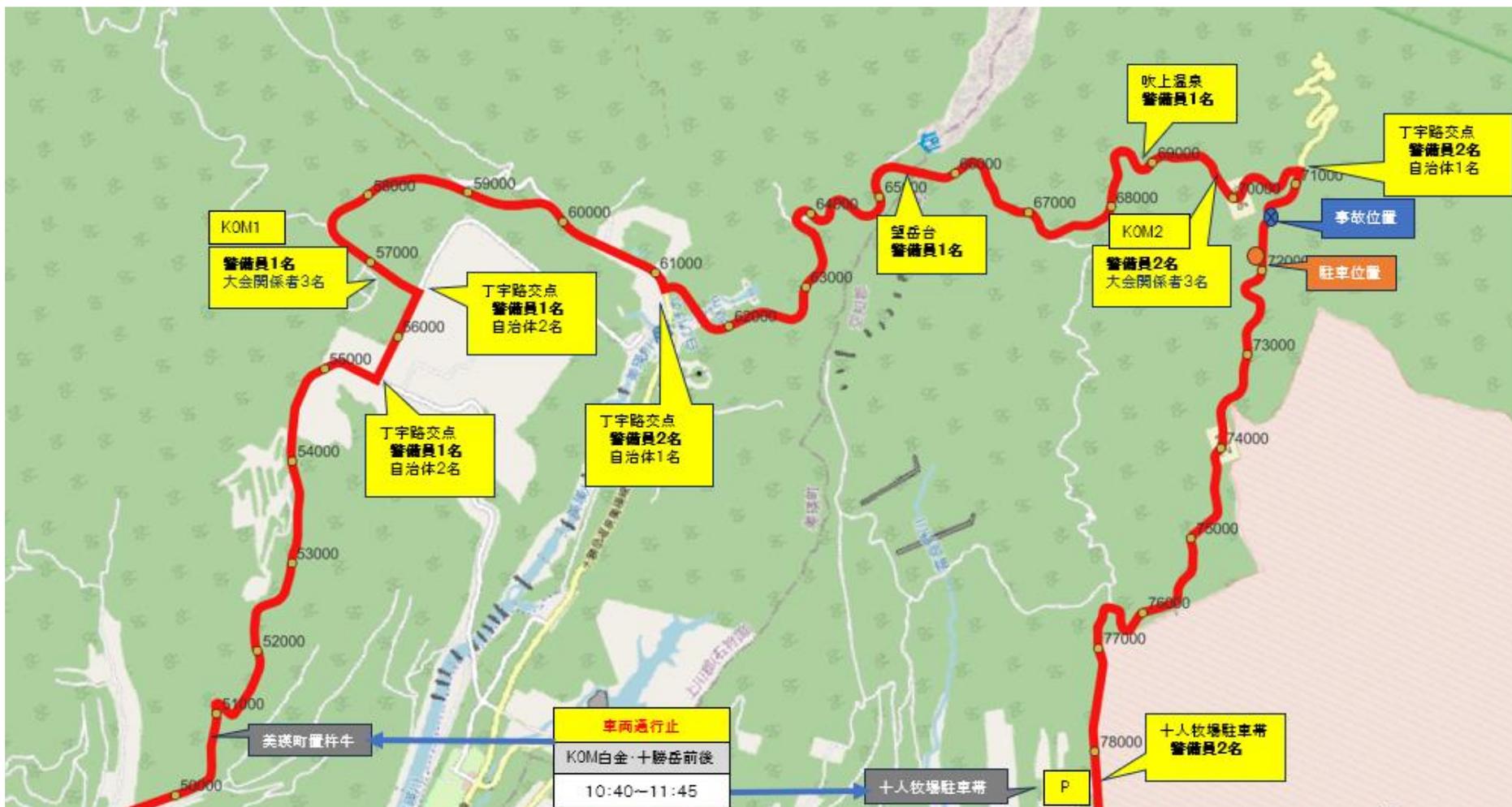
- 全ての交差点及び滅灯された押しボタン設置箇所
 - 交差点(選手の右左折)
 - 商業施設等で歩行者、車両の多い出入り口
- ※砂利道、個人住宅等の取り付け道路は、原則対象外

交通整理員貸与品



第1ステージ警備員等配置

(美瑛町置杵牛から上富良野町十人牧場駐車帯間)

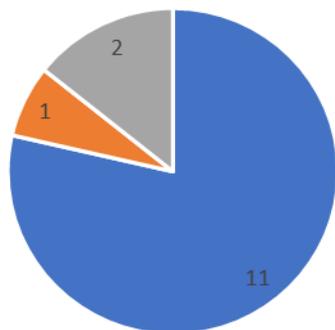


警備会社アンケート

第1ステージ14社へのアンケート

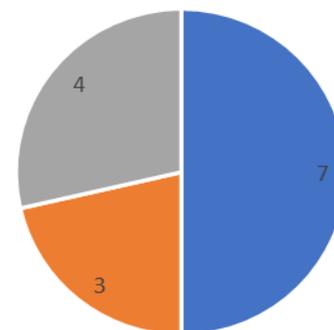
※全14社中、1社廃業であり回答数は13社であるが、14社の回答書を回収、無記名のため廃業1社は特定できず。

ツール・ド・北海道警備経験



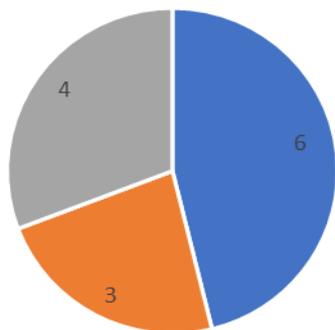
■ 5回以上 ■ 4回 ■ 1回

警備業務予定日数



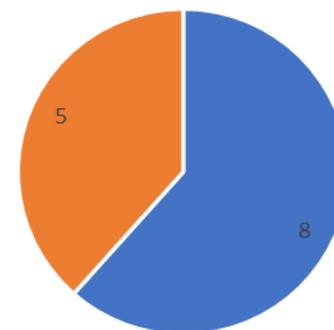
■ 3日 ■ 2日 ■ 1日

代表会社からの業務説明時期



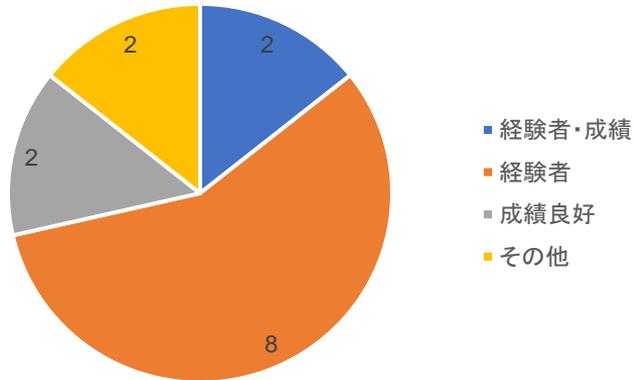
■ 1週間以内 ■ 2週間前 ■ 3週間以上前 ■ ※代会社除く1社

代表会社からの業務説明理解度

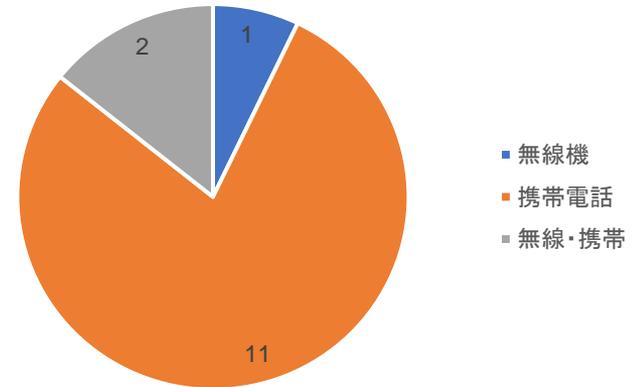


■ 十分理解 ■ 理解 ■ ※代表会社を除く13社

警備員選定基準



連絡手段



警備会社意見

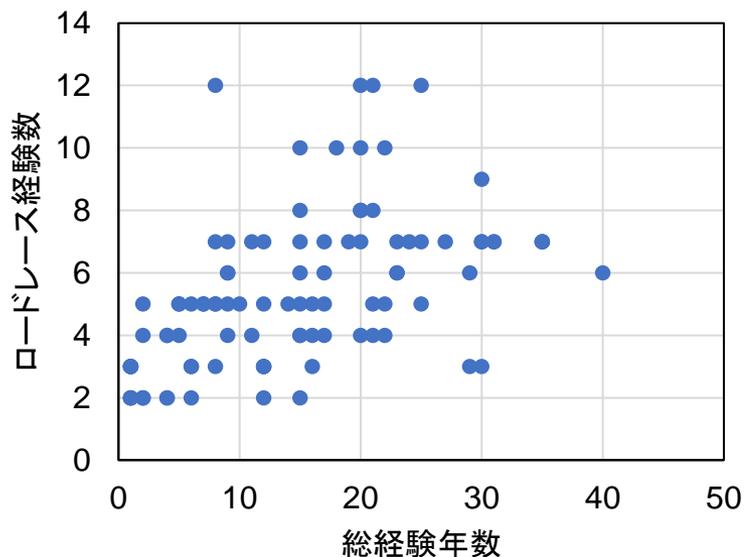
- 大会本部内に警備責任者の常駐が必要(大会関係者との連携)
- 全幅使用及び対向止区間に看板の設置(特に警備員配置箇所)
- 山岳のカーブに警戒警備員を配置
- 本部との情報共有用無線機が必要
- 主催、警察、警備会社での会議開催
- 資機材不足(ツール・ド・北海道開催中を明確にするロゴカバー(バイロン)が必要)
- 主要交差点、交通規制の両端には警察官の配置が必要
- 警備会社、警察、ボランティアで規制開始のタイミングの解釈が相違

代表幹事警備会社からの聞き取り

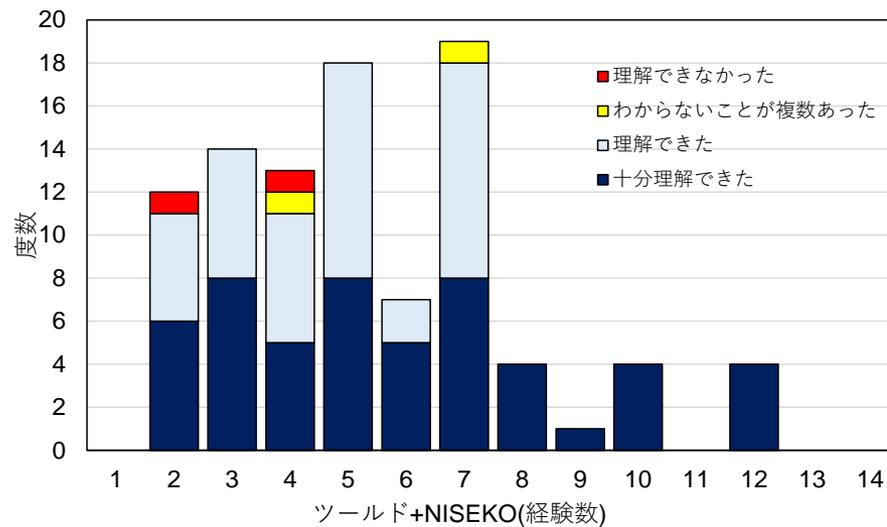
項 目	内 容
十人牧場駐車帯の警備について	○2019大会は警察官の配置指示があり、今回も警察官の指示があると想定 (本大会の警察官配置なし)
現場のトラブル	○今大会のトラブルは聞いていない ○毎回、ドライバーからの辛辣な言動 ○指示を無視する車両
警備の特殊性	○動かないイベント警備が多く、動くイベントのケアは困難 ○ラインレースは完全に一般車両の進入防止は困難 ○突発事案対応にIP無線等が有効だがコストが問題 ○警備員は固定配置で、突発対応は車列での対応が必要 ○毎年コースが変わるので警備員確保が困難
規制時間等	○一般住民等に対する規制時間は、生理現象もあり、30分程度が妥当 ○対向止の長距離規制をブロック(短距離規制)単位に変更、対向車線に車両の停止措置を実施 懸念事項は、停止車両の転回や車両後方から追い抜く車両
警備員確保と説明	○9月はイベントが多く警備員確保は困難 ○業務説明は、各警備会社担当へ行き、担当が警備員に説明 ○警備会社によって、従事警備員の選定が遅延(大会直近)
現場広報	○ドライバーがいない車両(路側帯の駐車車両)へのチラシ広報が必要 ○警備員と交通規制予告看板をセット配置することで広報が容易 ○白基調の看板(交通規制予告)では見えづらい可能性 ○毎年同じコースの場合、住民の理解と協力確保が容易

警備員アンケート

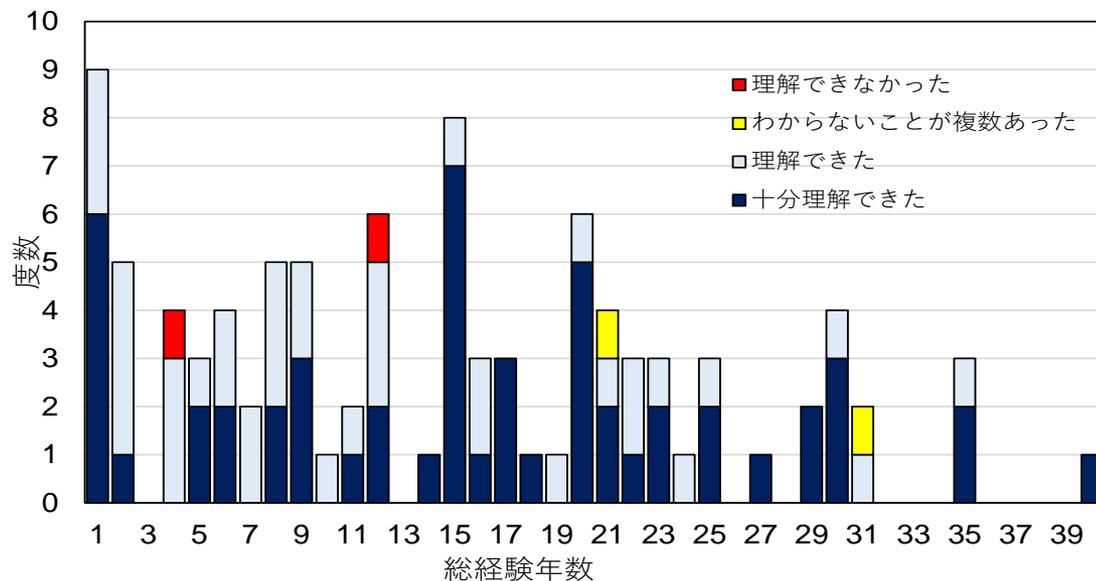
総経験年数とロード経験年数(クロス集計)



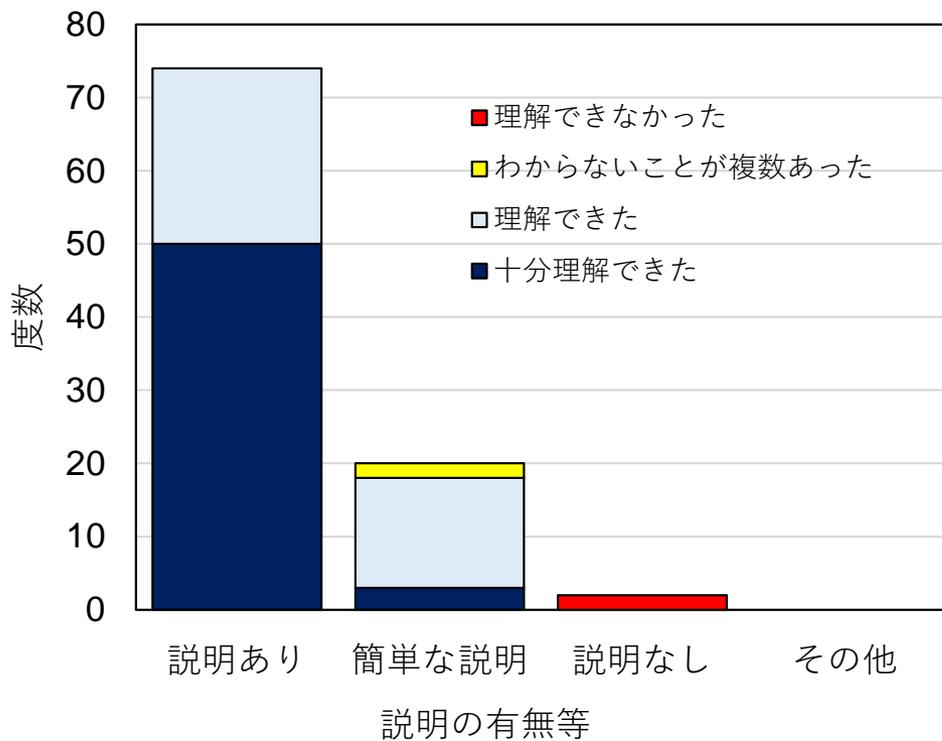
ロードレースの警備経験数と理解度



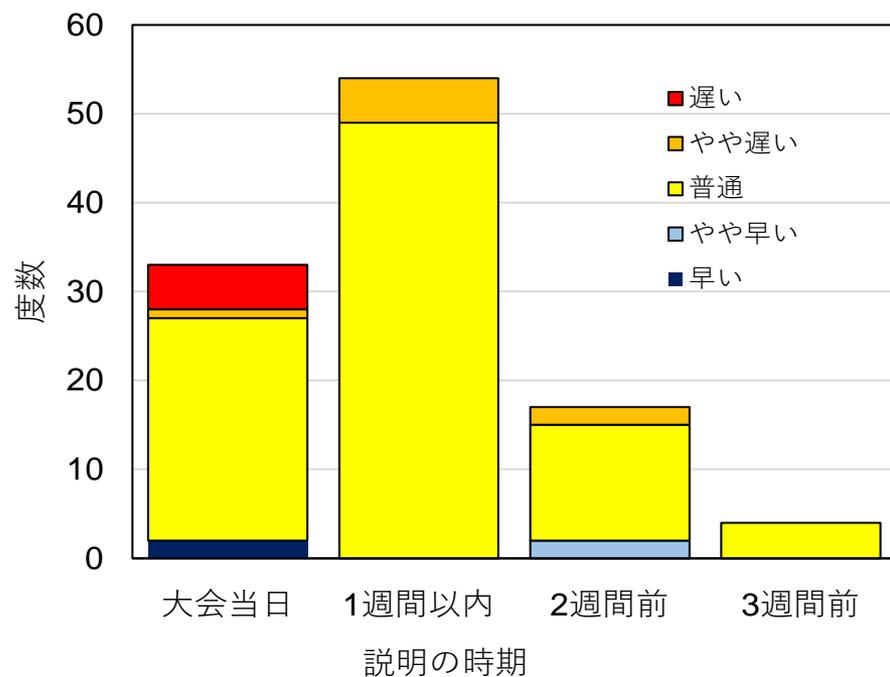
総経験年数(警備員)と理解度



会社からの説明の有無と理解度



業務説明時期の早遅 (警備会社から警備員)



警備員意見

項目	内容
警備体制	<ul style="list-style-type: none">○車両進入防止のため細かい箇所への配置○警備関係者による全体会議の開催○緊急時の連絡先一覧表が必要(ブロック単位責任者設定済)○業務説明の早期実施と警備員配置図面の詳細化
交通規制	<ul style="list-style-type: none">○全面通行止○コース上の停止車両を運営側で移動○住居や会社があれば完全封鎖は困難○交通規制予告看板の増設○規制前に進入した車両への案内チラシの配布○規制開始後の規制内の車両確認を運営側で実施○見通しの悪いカーブ等に無線機所持者を配置
資機材	<ul style="list-style-type: none">○全体把握のため無線機が必要
広報	<ul style="list-style-type: none">○テレビやラジオによる交通規制開始・解除○規制前の進入車両に対する案内チラシの配布